

2025 年度とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会
「第 21 回学会」 & 「第 28 回公開セミナー」開催要綱

1 趣 旨

今や超少子高齢社会を背景とした社会保障・社会福祉の課題は、全ての国民の「我が事」になった。2016 年 9 月の厚労省 PT の「福祉ビジョン」から、地域共生社会の構築を目指した一連の社会福祉法等が改正され、国民のすべてが参加する「重層的支援体制整備事業」の取り組みが、全国の 473 の自治体で、県内では、宇都宮市、栃木市他 8 市 5 町で果敢に取り組まれている。

2024 年の 6 月には、宇都宮市から栃木県社会福祉士会に上記事業の一部が委託され、「とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会」（加盟 6 団体/会員 1,200 名）は、これを支援している。

また、同年 8 月には、社会福祉法人恩賜財団済生会（職員約 66,000 人）が、これらを見据えた「地域包括ケア連携士養成事業」を開発し、全国 2 か所のモデル地区を北海道と栃木県に設定し、全国初の社会福祉専門職団体協議体の本会と共催し、39 名の「地域包括ケア連携士」を誕生させ、今年度も継続している。

国は、地方自治体に「重層的支援体制の整備」（①断らない相談②当事者参加支援③地域づくり）を果敢に求めているが、この背景には、2000 年以降の家族や地域社会の基盤が変化し、「生きづらい」社会への変化がある。

心身や生命を維持できない「絶対的貧困」に加え、人間の尊厳や人間関係を損なう「相対的貧困」の解決が今、焦眉の課題である。

近年、激増する「子ども食堂」や不登校の児童の増加に象徴される「子どもの貧困」をはじめ、生活情報の格差や生理用品の購入もままならぬ「若い女性の貧困」が顕著である。また、単身世帯化に伴う認知症や老老介護等の「高齢者の貧困」も著しい。さらに引きこもりの人々の増加や「8050」世帯の増加、いわれなき偏見や差別の伴う「障害者の貧困」等も従来に増して深刻である。

中でも、これらの課題に対応する社会福祉専門職の専門性の向上を図る諸条件の整備、とりわけ介護人材の不足をはじめ労働環境の整備は、喫緊の課題である。そこで、「現代の新しい貧困の本質」を問いながら、それらを解決するために、すべての人々が参加・協働する「地域共生社会構築」の在り方を明らかにする。

2 内 容

(第 1 部) 基調講演 「現代の新しい貧困とは何か？」



- | | | |
|-------------|------|---|
| □ 講 師 | 岡部 卓 | 新潟医療福祉大学教授
東京都立大学名誉教授
元明治大学公共政策大学院教授 |
| □ 経 歴 | | ○公的扶助ワーカーを 10 年経験。日本の貧困について現場を熟知し、鋭く現代の新しい貧困を俯瞰する気鋭の研究者。
○国の社会保障審議会委員及び公的扶助専門部会委員として政策と現場を繋ぐことのできる数少ない研究者。 |
| □ 著書 & 研究領域 | | 「公的扶助論」「社会保障論」
「貧困問題とソーシャルワーク」 |

(第 2 部) 基調報告

宇都宮市保健福祉部地域共生推進室	野澤純係長
栃木県社会福祉士会	濱崎香織理事
栃木県医療社会事業協会	荻津守副会長

(第 3 部) シンポジウム 「今、現場で何が起きているか？」

※別添発表論旨参照

コーディネーター 大友崇義代表 松永千恵子副代表

コメンテーター 岡部 卓教授

シンポジスト

「子どもの貧困」	栃木県社会福祉士会	高橋 弘美
「女性の貧困」	栃木県医療社会事業協会	荻津 守
「障害者の貧困」	栃木県精神保健福祉士協会	稲見 聡
「高齢者の貧困」	栃木県介護福祉士会	谷口 美智
「訪問介護の貧困」	栃木県ホームヘルパー協議会	絹木 憲司

3 開催期日 令和 8 年 1 月 24 日 (土) 10 時 00 分～16 時 45 分

4 場 所 とちぎ福祉プラザ 3 階 福祉研修室 AB
宇都宮市若草 1 - 1 0 - 6

5 日 程

時 間	内 容
9 時 45 分	受付開始
10 時 00 分	開 会
10 時 05 分	挨拶 とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会代表 大友 崇義 栃木県知事 福田 富一 栃木県社会福祉協議会長 石崎 金市 栃木県社会福祉法人経営者協議会長 菊地 月香
10 時 30 分 (90 分)	「現代の新しい貧困とは何か？」 講師 岡部 卓 新潟医療福祉大学教授 東京都立大学名誉教授
12 時 00 分 (60 分)	昼食
13 時 00 分 (45 分)	基調報告 ①「重層的支援体制整備事業」の現状と課題及び 今後の展望 宇都宮市保健福祉部地域共生推進室 野澤純係長 ②「宇都宮市社会参加支援事業」の現状と課題 栃木県社会福祉士会 濱崎香織理事 ③「地域包括ケア連携士養成事業」の現状と課題 栃木県医療社会事業協会 荻津守副会長
13 時 45 分 (95 分)	「シンポジウム」 ○コーディネーター 大友崇義代表 & 松永千恵子副代表 ○コメンテーター 岡部卓教授 ①子どもの貧困 栃木県社会福祉士会 ②女性の貧困 栃木県医療社会事業協会 ③障害者の貧困 栃木県精神保健福祉士協会 ④高齢者の貧困 栃木県介護福祉士会 ⑤訪問介護従事者の貧困 栃木県ホームヘルパー協議会
15 時 20 分 (10 分)	休憩
15 時 30 分 (70 分)	グループ討議 全体ファシリテーター / 松永千恵子副代表 ① グループ討議⇒5 グループに編成 ② グループファシリテーター i 各レポーターが担当する。

	ii グループワークにより、各領域における現状と課題をまとめ、専門職は何ができるか、①政策領域②経営領域③臨床領域への提案をまとめる。
16 時 40 分 (10 分)	宣言文採択 栃木県ホームヘルパー協議会 絹木憲司会長
16 時 50 分	閉会

- 6 参加費 会 員 1,500 円
 一 般 2,000 円
 学 生 500 円

- 7 申し込み 以下の二次元コードまたは URL からアクセスし、必要事項を入力してお申し込みください。



<https://x.gd/qqCXS>

- 8 締め切り 令和 8 年 1 月 15 日 (木)

別紙 2025 年度学会・公開セミナーの内容

項 目	内 容	備 考
I 基調講演	「新しい貧困」の社会的な背景を明らかにし、社会福祉専門職及び市民の協働の実践の在り方を考える。	岡部 卓教授
II 基調報告 「重層的支援体制整備の現状と課題」	<p>I 県内初の「地域共生推進室」を設置し、「重層的支援体制整備」の取り組みの現状と課題を明らかにする。</p> <p>II 「当事者参加支援」のソーシャルワーク実践の到達点の現状と課題を明らかにする。</p> <p>III 「地域包括ケア連携士養成事業」～全国済生会モデル～の現状と課題を明らかにする。</p>	<p>宇都宮市保健福祉部 地域共生推進室 野澤純係長</p> <p>栃木県社会福祉士会 濱崎香織理事</p> <p>栃木県医療社会事業協会 荻津 守副会長</p>
III シンポジウム	<p>I 「子どもの貧困」</p> <p>子どもの幸福は、家族、教育、地域社会の環境整備と不可分である。</p> <p>不登校の児童が爆発的に増加している背景に何があるのか教育と福祉の間に介在する「子供の貧困」課題を明確にする。</p>	栃木県社会福祉士会
	<p>II 「女性の貧困」</p> <p>日本の女性の地位は、先進国の中で、最下位にある。とりわけ、若年女性にこれらの矛盾が集中し、生理用品の購入もままならぬ女性が増加している。宇都宮市の受託事業から、実践の在り方を展望する。</p>	栃木県医療社会事業協会
	<p>III 「障害者の貧困」</p> <p>障害者、とりわけ精神障害者は社会から疎外されてきた。今、SWGｓ（持続可能な幸福開発目標）を目指す今日、障害者のあってはならない貧困の実態を明らかにする。</p>	栃木県精神保健福祉士協会
	<p>IV 「高齢者の貧困」</p> <p>超少子高齢社会の中、単身高齢者、認知症家族等を支える家族や地域基盤の弱体化深刻である。終身を保護する「介護の貧困」とは何か、その現状と課題を明らかにする。</p>	栃木県介護福祉士会

	<p>V「訪問介護の貧困」</p> <p>訪問介護の開設状況が、1ヶ所ないし2ヶ所の自治体は、全国の自治体の約3割(29.6%)を占める。介護報酬の低さと訪問介護事業所の小規模化は、人材の確保の困難と相まって、その課題解決は、急務である。</p>	<p>栃木県ホームヘルパー協議会</p>
--	---	----------------------